

Technology Creatives Program

2025 年度自己評価書

I プログラムの現況、目的及び特徴

事業概要

エンジニアとデザイナーが価値創造スキルを身に付け、先端技術を活用して社会共創の機会をつかむための「価値創造人材育成プログラム」を開発し、拠点を形成する。テクノロジー、アート・デザイン、ビジネスの全方位指導体制を通じて「エンジニア×デザイナー」の人材プールとネットワークを構築する。

実施内容

- ①**尖った人材の輩出**：少数の社会人受講者を対象とする教育プログラム Technology Creatives Program（通称テックリ）を運営する。従来に無い新しい価値創造のため、パーパスを設定し、課題発見、解決方法提案および社会実装を自らリーダーシップを発揮して先導できる能力およびマインドセットを備えるためのプログラムとする。
- ②**実践共同体の組織**：プログラム修了生、教員、トレーナーが互いに刺激しあうネットワークを構築し、我が国における価値創造人材プールとなる。
- ③**第4期の方針**：文科省「大学等における価値創造人材育成拠点の形成事業」最終年度となる第4期はプログラムの総仕上げとして基本形を確立するとともに、リカレント教育としての効果検証を深化させる。

II 基準ごとの自己評価

評価項目	評価内容（概要）	評価結果 （自己評価）	改善の方向性 （必要に応じて）
価値創造のためのリーダーシップを発揮できる人材の輩出	修了生が立ち上げた累計プロジェクト数は目標を達成した。受講生のリフレクションからは、「ビジネスの種を見つける人」という受講前の認識から、「ユーザーに寄り添い、曖昧さを受け入れながら（Dance with Ambiguity）革新を導く人」へと人材像が具体化・深化していることが確認された。	◎	派遣元企業との連携を強化し、修了生が組織内で学んだマインドセットや手法を実践・伝播できる環境づくりを支援する。
実践共同体の形成	毎年の修了生がトレーナーとしてプログラムとの継続的な関わりを持ち、現役生をサポートする体制が定着している。	◎	アルムナイ・イベントやEDP コンソーシアムとの統合を通じ、修了後も継続して学び合えるプラットフォームを維持する。
教育プログラムの改善	ブレンディッド・ラーニングの本格導入により、事前動画学修と対面演習を効果的に組み合わせ、限られた時間内での学びの質を最大化した。また、モジュール間の接続を強化する施策を追加し、受講生の迷走度を軽減する施策を導入した。	◎	次年度からの短時間化（60時間）においてもデザインプロセスの繰り返しによる学びを維持できるよう、介入のタイミングを精査する。
学習成果の把握と活用	定量評価とインタビューデータの定性分析を継続。「共感」や「実験」のスコアが有意に上昇することを確認	◎	分析結果をプログラム構成の改善（目的の明示や業務との対比の強化など）に反映させるサイクルを継続する。

III 総括

本プログラムでは、毎年3回の集中検討会を通じて、教育内容の改善および拠点形成に向けた議論を継続的に行っており、受講生の学習データの収集と分析も継続し、プログラムの質的向上に貢献している。

オンライン講座「NVCA」のコンテンツは順調に拡充されており、プログラム内では反転学習の教材として活用されているほか、実践共同体における継続的な学びの資源としても機能している。

各期の修了生はトレーナーとしてプログラムに継続的に参画し、複数回の受講経験を通じてプログラムへの理解を深めている。彼らは講師陣との議論において有益なインプットを提供し、教育内容の改善に寄与している。また、メンターとして講師陣と密接に連携することで、拠点形成の中核人材として成長している。

以上の取り組みにより、本プログラムは「価値創造人材の輩出」と「実践共同体の形成」という目標に向けて、着実に成果を上げられたと評価できる。

一方、力をつけた修了生が企業に戻って、活躍の場が与えられているかという点ではアルumnaiミーティングの場でのヒアリングでも改善状況が聞かれない。これまでも連携企業の幹部への働きかけはおこなってきたが、価値創出活動における若手人材の活用についての連携企業の現場体制への働きかけは未実施である。そのアプローチについてコンソーシアムの場も活用し、検討を継続していく。

以上